

第1回「親心を育む会」会議記録

日 時 : 平成19年7月6日(金) 14:00～16:20
場 所 : 熊谷会館 展示室
出席数 : 24名

1. 代表挨拶 行田保育園 園部浅子先生より

「親心を育む会」は日保協埼玉県支部の下部組織より外れたことが、報告される。この会は、最初からの趣旨通り、会員の皆様のお力添えをいただきながら、「親心」を耕すために尽力していく会に、とのこと。

2. 松居和先生挨拶

ひとつの目標として、この「親心を育む会」の参加園すべてで、「保護者の1日保育者体験」が実施されること。そしてそれが、埼玉県下のみならず、全国規模で広がっていけば、これは大きな流れになる。

この会は、皆さんで集まって和やかに、まるで町内会のような雰囲気の中、「親心を耕す」をキーワードに、全国の保育園や行政に情報や提案を発信できるような、そんな会にしていきたい。とのこと。

3. 事務局自己紹介

花園第二保育園 高木早智子 …事務局として会の連絡・進行・記録担当
なでしこ保育園 大谷光代 … //

ことぶき花ノ木保育園 高田 綾 …事務局として会の会計・記録担当

4. 会員自己紹介

5. 情報交換

(1) 話がしやすいように、参加者は4グループに分かれる(色紙のくじで色別の4グループ…赤・黄色・緑・青)。

そして、グループセッションのお題を松居先生より出してもらう

→その前に、今年度「保護者の1日保育体験」を初めて実施した、園の事例発表

① 保護者に松居和先生「21世紀の子育て」講演会をきいてもらう

- ・ 4月21日(土)保育参観とセットにして開催
(講演中子どもは保育園で保育)

- ・ 当日講演に出られない保護者には、講演のビデオを後日保育園に

来て見ていただいた（土・日問わず、保護者さんの都合にとことんあわせた）

- ・ 講演会の最後に「保護者1日保育者体験」の告知
 - ・ 保護者アンケートの回収(回収率60%弱)→概ね好意的
- ② 6月11日、保護者に「1日保育者体験」日程希望用紙を配布
- ・ 締め切りは6月末日。7月以降実施。
 - ・ 日程は第3希望日まで記入できるようにした
 - ・ 文章内に「必参加」といれた。
 - ・ 1日各園1人のみの受入。発表会等の大きな行事の直前2週間や土曜日、協力保育期間中を除いたすべての日程を希望可能日とした。
 - ・ 給食・おやつ付

《保護者の反応》

当初心配された、保護者の抵抗（仕事を休めない、等）は殆どなかった。保育士にも、対応に困るようなら事務所に連絡してくれとっておいたが、呼ばれることはなかった。

年間予定表に、他の保護者の名前が次々と入っていくのを見て、はじめは乗り気でなかった保護者も、急いで日程の指定をしてきた。

6月しか来られない、と言った方にテストケースで来てもらおうと、子どもたちが大喜び。自分の親も来るんだ！と知った途端、子どもたち自身が親に「いつ来るの？」と営業！？してくれ、こちらも助かった。

締切が過ぎても、提出しなかった保護者には個別に主任が、保護者名入りの年間予定表を見せながら、笑顔で「どこがいいですか？」。

今のところ全員の日程が確定したところである。

→今年度から同じように「保育者体験」を始めた園から体験談が出される。

こちらは必参加ではないのだけれど、ある保護者(パート勤務の母親)が、保育園には言わず、役場に苦情を申し立て、役場から「強制参加ではないので、保育者体験をやめろとは言わないが、こんな電話があったことだけをお知らせする」との連絡があった。母親の気持ちになれば、保育者体験に行きたいが仕事は休めないというジレンマからそのような行動になったのではないか。

→松居先生より、行動を起こせばそれに条件反射のように反応(反発)してくる人は必ずいる。しかし1日保護者を保育園に漬け込む、とい

う体験は親心を育てるのだから、ぜひやってみてほしい。本当は保護者全員が体験できると一番良いのだが…。

(2) 松居先生より、グループセッションのお題発表

「自園で親心を耕すためにやっていること」

・各グループで話し合い…くじには番号も書いてあり、一番番号の小さい人が司会を、一番番号の大きい人がそのグループの記録を担当

(グループセッション 約30分)

・各グループ、2番目に数字が小さい人が発表

◎ 赤チーム

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 保育参観 | <input type="checkbox"/> フェスティバル |
| <input type="checkbox"/> 入園式 | <input type="checkbox"/> 春祭り(親子で登園) |
| <input type="checkbox"/> 卒園式(親が言葉を述べる) | <input type="checkbox"/> 親子バス遠足(親75人・子65人) |
| <input type="checkbox"/> 園便り(親心に聞かすことを書く) | <input type="checkbox"/> 夕涼み会 |
| <input type="checkbox"/> 国際交流 | <input type="checkbox"/> 親子で作る(畑・たんぼ) |
| <input type="checkbox"/> 子育て支援(0～5歳 5名ずつ参加) | <input type="checkbox"/> 個別面談 |
| <input type="checkbox"/> 野外散歩(秩父方面) | <input type="checkbox"/> 体験学習(木工・バーベキュー) |
| <input type="checkbox"/> 災害時・緊急時児童引渡し訓練(9/26) | <input type="checkbox"/> 育ちゆく子どものつどい(人形劇) |
| <input type="checkbox"/> 運動会(赤い羽根募金) | <input type="checkbox"/> 保育参加(父・母・祖父母) |
| <input type="checkbox"/> 養護学校の預かり(15名) | <input type="checkbox"/> プール遊び |
| <input type="checkbox"/> 春の親子遠足 | <input type="checkbox"/> 誕生会(カード作成) |
| <input type="checkbox"/> 秋の親子遠足 | カードの中に親心が育っている |
| <input type="checkbox"/> クリスマス会 | <input type="checkbox"/> みたままつり |
| <input type="checkbox"/> 敬老会(市の行事に参加) | <input type="checkbox"/> 食育(ジャガイモ・稲刈りの体験) |
| <input type="checkbox"/> 七夕祭り | <input type="checkbox"/> お泊り保育 |
| <input type="checkbox"/> もちつき | |

☆総括として、各園それぞれに同じようなものもあったが、親心を耕すために行事を多く開いていることがわかった。とのこと。

◎ 黄色チーム

- コーナー遊び…毎日カバンの中に廃品を1ヶ入れてもらい、子どもたちが製作活動し、品物が保育園・家庭を行き来する
- ひな人形・夏祭り飾り…材料を家に持って帰り、家の人と一緒に作った作品を園に持って来て飾る

- 田畑…実体験 きゅうりをそだてる→おうちへ持って帰りどんな風に食べたかを聞いたりする
 - 芝人形…保育参観で、母子でくつしたに土と芝の種を工夫して入れ、父親の顔を作成。それを家庭に持ち帰り、育て生えてきた芝を父親が手入れし、おうちでどんな風に育ったかを子どもに聞いたりする
 - 保護者会 大掃除 年に3回→1回へ お父さんたちより、保護者側から掃除を申し入れてくれている
 - 保育参加 1日体験 感想文を提出。お母さんが赤ちゃんをおんぶしての保育体験。そのおんぶした母親の姿が園児たちにもいい。
 - 行事の後は、必ず感想文を書いてもらう→良いものを他の親に見せて伝える
 - 土曜保育…簡単なハードル(土曜の勤務証明とか保育申込書とか、園長のいやみ！？とか)を作ると預ける人が減ったりする。どうしても必要な人はそのハードルを越えてくるから。
 - 夏休み…これも会社の印がなければダメとか、ハードルを設ける
 - バス旅行で、号車ごとに行事に参加、とか
 - 引きこもり→片付けられない・家の中はちらかっている
 - 親の前でも、(子どもに対し、われわれ保育園は)悪いことは悪いと叱ることも必要なのではないか
- ☆総括として、園と家庭とを結ぶ、一方通行ではないものの工夫(廃品利用や芝人形など)がされていた。また、安易に預からない(土曜や夏休み等)工夫もいろいろ出されていた。とのこと。

◎ 緑チーム

- 長年にわたる奉仕活動…親だけ→次第に子どもも一緒にくるようになった
- (保護者の)保育参加…9時から4時までの丸一日。お昼寝時に懇談をする
- 保護者に園児へ絵本を読んでもらう→「こんなに喜んでくれるんだ」「うちでもやってみる気になった」
- 1園1日1人の保育体験
- パパサポーター→夏祭りの模擬店を1つお任せ・運動会の用具運び、準備(有志による→園から募集用紙を配ったり、スカウトしたり)
- 「誰かやってくれますか？」には手が挙がらない。「全員参加です」だとけっこう集まる
- 保護者会役員会が活躍。遠足の保育士補助。お泊り保育のパパ参加。運動会のスターターなど親の参加
- 30年やっている運動会競技(子どもから親へボールを乗せたかごをリレー)
- 最近父親の参加が増えてきた→良いことですね
- 大学の入学・卒業式に両親で出席

- 遠足は近所の公園に現地集合・現地解散。親子のふれあいが目的で始めたが、年々参加人数が増えた(家族中で参加してくれるようになった)
- 幼稚園の遠足で、上野動物園。集合してしばらくすると、幼稚園の先生方は「親子でごゆっくり」といって皆去ってしまう。
- あえて大型バスで(乗る機会がないので)みんな(親子)で行きたい!
- 卒園アルバム…入園から卒園までの写真を台紙裏表1枚分に保護者がまとめる(1園児につき1枚)。それを大きなアルバムに閉じて、担当保育士に卒園の記念品としてくれる。年々保護者の紙面構成もうまくなる(代々受け継がれているので)。また親にとってもいい振り返りになる。
- コンタクトタイムノート(ニュージーランド)…園と親が記入して、2年ぐらいかけて1冊出来る。フリーページ等を家族で構成する

☆総括として、この様に各保育園で努力しても小学校に上がると、途端にその手厚さはなくなる。そこをどうにかならないものか。

◎ 青チーム

- PaPa's クッキング(年3回)
- 夕涼み会…保護者の方の参加型(仮装大会・早口ゲーム・HIP HOPダンスなど)
- 父親参加させるのに苦労している。よいものがあれば知りたい。
- 父親協力委員として登録していただく(パパサポーター)→行事の時の手伝い
- 一日保育士…保護者に参加してもらう(4月から希望を募ってやっている)
1日1人限定。
- 施設との交流…デイサービス。お年寄りから自然に学ぶこともある。挨拶の仕方など。
- 参観後に昼食を出すうどんパーティー
- 基本的に行事は全員参加をお願いしているが、(強制よりも)口伝えで来てもらえるようになるのが理想

☆総括として、逆境の中では学ぶものがあるが、現代では(逆境自体)不可能。恵まれた時代ならではの、悩みか。行事にも強制ではなく、楽しそうだから行ってみたいという風に持っていくのが理想、とのこと。

(3) 立正大学 原田先生からのコメント

さまざまな場所で、数多くのお母さんたちや学生達と接していて気付いたことが、「(子どものことを)知らないことが多い」ということ。保育園の現場でも、

まず保護者は知らないのだということを前提に、子どもの叱り方や生活習慣等についても教えてあげるべきである。

これからも、福祉部の学生のためにもいろいろ保育現場の情報を共有させてもらいたい。

(4) 質疑

F市でも公立の幼稚園は小学校との交流が盛ん。しかし、保育園にいる年長児については、市の眼中にない。おなじ市の子どもなのに、しかも、年々保育園卒園児が増えているにもかかわらず、保育園の子はないがしろにされているようにも感じる。その部分がどうにかならないものか。

松居先生より

以前も(注：この会の前身「松居先生を囲む会」)これについては、話をしたことがあって、小学校の新1年生の担任を前年度3月中に決めて、その担任予定の先生が新1年生を各保育園や幼稚園に見に来てもらえないか、というような提案があった。教育委員会に持っていくと、クラス担任を決める権限は校長で、その校長の人事自体が4月1日付けで決まるので、3月中担任決定説はちょっと無理がある、と。

ただ、いろいろな組織と「繋がる」のは非常に大切。そこから新しい動きや流れが起きてくる。最近JC(青年会議所)のメンバーと会うこともあったが、彼らも面白い考えを持ち、やろうとしている。こんな風に、いろいろなところで動きが起きているのだから、「繋がって」いこう。

さっきの話し合いの中ででていた、園での取組みを全地域に発信することによって、どこかで親心を耕したいと思っている園で、又はすべての保育園でこの取組みのうち1つでも2つでも、3つも取り入れれば、(園も親も)変わってきますよ。

いろいろこの会で考えて、是非発信していきましょう。

(5) 日保協女性部より研修案内

(6) 第2回「親心を育む会」告知

平成19年8月31日(金) 14:00~16:00

熊谷会館 第3会議室にて

以上